

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立美保関中学校

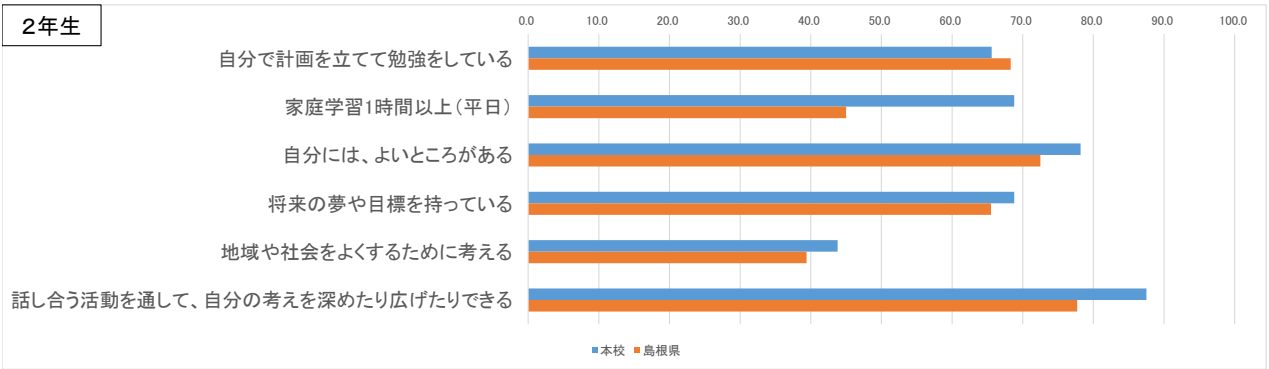
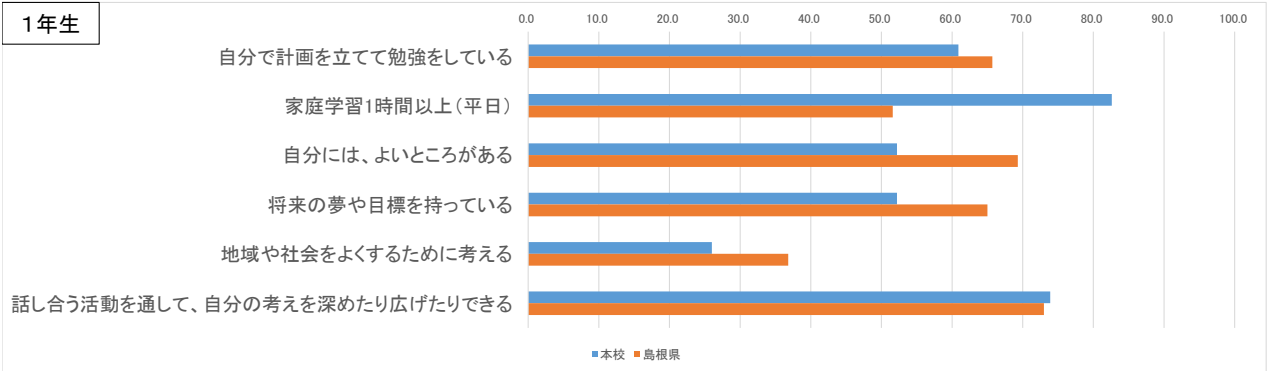
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○文節や単語といった文法事項や歴史的仮名遣いなどの学習事項、また情報の扱い方についての学習事項はおおむね定着している。 ○また、主体的に学習に取り組む態度も市平均と比べて12.3P上回っているため、今後もねらいを明確にした授業に努めたい。 ●漢字の読み書きを苦手としているので、授業ごとに繰り返し学習して、より丁寧に学習を進める。 ●読み取った事実や自分の考えを明確にした話の構成や文章作成に弱点がある生徒がいるので、個人の能力や関心に応じて幅をもたせた課題設定に努める。	○基礎・活用ともに、市・県平均を上回っており、概ね良好である。特に文法・語句、歴史的仮名遣いなどの力が定着している。 ○昨年の課題であった、主体的に学習に取り組む態度も、16.8P上昇したので、今後もねらいを明確にした授業づくりに努めたい。 ●話の内容を正しく聞き取ることや漢字の書き取りに弱みが見られるので、日々の学習活動に取り入れ、定着を図る。
数学	○「文字式」の内容は、市・県・全国平均を上回っており、概ね定着している。 ●「関数」の領域に大きな課題がある。2年生の「1次関数」の授業では、「比例・反比例」の復習を兼ねた活動を取り入れていく。 ●思考・判断・表現力を問う問題で目標値を大きく下回っている。これまで以上に授業で応用問題に取り組み、応用力を向上させる必要がある。	○基礎は概ね定着している。 ●「関数」の領域に大きな課題がある。3年生の「二乗に比例する関数」の授業では、「比例・反比例」・「1次関数」の復習を兼ねた活動を取り入れていく。 ●思考・判断・表現力を問う問題で目標値を大きく下回っている。これまで以上に授業で応用問題に取り組み、応用力を向上させる必要がある。
英語	○語形・語法の知識・理解や単語の並べ替えによる英作文など、知識・技能についての力が市や県平均と比べて7p程度上回っており、定着していることが伺える。 ○主体的に学習に取り組む態度も市平均と比べ4.5P上回っているが、県平均には届いていないので、個々の目標を明確にして今後も取り組ませたい。 ●対話式の応答によるリスニングが県平均より12.7P低い。「聞く力」に大きな課題が見られるので、授業内外で「聞く力」をつけるトレーニングの機会を増やしていきたい。また、英文の読み取りや英作文など思考・判断・表現の力にも課題があるので、知識・技能の力を活用する表現の場を増やしていく。	○基礎は概ね良好である。 ●問題の内容は、「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」と「語形・語法の知識・理解」に課題がある。学習したことが、長期的に身に付いていない傾向が見られるので、復習を兼ねた活動を取り入れていく。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○平日家庭学習を1時間以上行っている生徒が8割以上であり、県の平均を上回っている。家庭学習の習慣が定着してきたといえる。 ○授業中のさまざまな場面での話し合いの活動を通して、相手の意見を受け入れたり、自分の考えを深めたりすることができている。 ●自己肯定感が低く、将来の夢や目標をもっている生徒が5割程度である。学活や道徳、総合的な学習の時間を中心に互いのよさを認め合い、自己のよさに気づくことができるよう取り組んでいく必要がある。	○各教科において、ペア学習やグループ学習の場を設けることで、自分の意見を持ち、伝えようとする生徒が増えた。また、これらの活動によって多様な考え方に触れることができた。 ○中学2年生としての自覚を持ち、係や委員会活動、日々の家庭学習にも積極的に取り組むことができるようになった。 ●メディアに触れる機会が多く、依存傾向にある生徒もみられる。家庭とも連携を取りながら、適切なメディアとのかかわり方を身に付けさせることが課題である。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 24 名 2年生 32 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)